

現代のこぼれ

こぼれ
小原 克博



などの精神的源流を再発見する中で、非暴力をインド解放のための土台とした。

このガンディーの影響をもっとも強く受けた人物の一人が、アメリカ公民権運動の指導者キング牧師であった。彼も黒人解放のための運動の基軸として非暴力をかけた。

ガンディーもキングも原点に堅く立ち、そこに新たな命を吹き込んだ「ファンダメンタリスト」であったと言える。暴力によって暴力的支配から脱するのではなく、白人中心の西洋文明においては考えられもしなかつた視点、すなわち非暴力こそが、それに抵抗するもつとも強力な原理になり得ることを彼らは知り、実践したのであった。

その意味で、現代における非暴力平和主義は、文明的な視座の中で紡ぎ上げられてきた抵抗原理と

しての来歴を持つている。日本国憲法における平和主義も、理念的には、その伝統に連なる性格を持つている。

ここで憲法がアメリカによって押しつけられたものなのか、あるいは改憲は是非かを論じるつもりはない。むしろ、アメリカから与えられたかのような憲法が、逆説的にアメリカ的枠組みを越え出る理念、すなわち、非暴力平和主義を持つていることを人類史的な視点に立つて再認

識・再解釈すべきではないかと思う。

愚直さ一本で世代をつないでいくことはできない。かつてある会合で、加藤周一氏が九条の会（彼は発起人の一人）を担っているのが、もっぱら高齢者であるのを嘆いていたことが、今も私の耳に残っている。ガンディーにしてもキングにしても、彼らの非暴力抵抗運動の重要な担い手に若者がいた。

憲法論議を単に国内問題としてとらえたのでは実際、多くの若者は振り向かないだろう。日本が負うべき平和主義の伝統を文明的な次元で研磨する中で、その土台に立つことの誇りを世代を超えて引き継いでいかなければならない。

その意味で、私は「平和憲法ファンダメンタリスト」でありたいと思つている。

（同志社大教授・キリスト教思想）

ファンダメンタリストは一般に「原理主義者」と訳されることが多い。「イスラム原理主義」という表現はニュースなどにもよく出てくるが、パレスチナ政権のハマスに代表されるように、西洋社会の価値基準に適合しない過激な集団という印象が強い。

そのような否定的・暴力的な色合いを帯びたファンダメンタリストという言葉は平和憲法に結びつけることは不謹慎に思えるかもしれない。しかし、対照的とも言えるこの二つの言葉を合わせ見るときに立ち現れ

る「原点」に私は関心がある。

原点や基本に立ち返ることの大切さを頭から否定する人はいないだろう。特に、自分自身や自分を取り囲む状況が大きな変化にさらされるとき、過去への原点回帰が未来の礎となることもある。

ガンディーもまたそのような道をたどった人であった。彼は、インドをイギリスの支配から解放するために西洋のやり方（たとえば民族主義的の革命）ではなく、絶対の「非暴力」こそが最大の抵抗原理になり得ると考えた。ヒンドゥー教

平和憲法 ファンダメンタリストとして



北尾 博史